

## 鉄砲洲神社 論語素読 解説

(平成 21 年 4 月 3 日)

通三 子曰く、巧言令色、鮮きかな仁。

お世辞が上手でへつらい上手。ニコニコしているけれども、目は笑っていない。頭も低くて、非常に取り入り方が上手。そういう人に本物の人間はいませんね。自分の身の回りをお考え戴いて、人当たりが良くて、腰が低くて、お世辞も上手だと思う。でもちょっとどこか引かかるなと思ったら、お付き合いは考えつつ、されるとよろしいと理解して下さい。

通四 曾子曰く、吾日に三たび吾身を省みる。人の為に謀りて忠ならざるか。朋友

と交りて信ならざるか。習わざるを伝えしか。

「三たび」というのは、3回ということではなく、たびたび・幾度も・常にとという意味です。何か約束をした、何か行動をしたその度に、「さっきのは、あれでよかったのかな？」と常に思い出してみる。

ちなみに神田の三省堂は、この論語からとっている事は世に有名です。私は三省堂に出かけて行って、役員の方にお会いして、「証拠はありますか」とお聞きしましたら、証拠らしきものは見せて戴きました。額にもかけてあったので、これは確かに論語からとったというふうに三省堂には伝わっているなという事を確認しました。

「人の為に謀りて忠ならざるか」は、人さまの為に何かして差し上げようという時に、真心を込めてやったか。

「朋友と交りて信ならざるか」は、学ぶ友達とか遊び友達と交際する際に、信義を尽くしてお付き合いをしているか。

「習わざるを伝えしか」師匠から習ったものを何度も何度も復習して、納得し、これだと思ふものを人さまにお伝えしているかを考えると良い。

今日、良いと思ったので申し上げたい事は、渋澤論語に書いてある次の文の解説です。渋澤栄一という人は、明治 2 年に政府に入り、明治 6 年に辞めています。大久保利通と対立をしました。

通五 子曰く、千乗の国を道むるには、事を敬して信、用を節して人を愛し、民を使う

とき もつ  
に時を以てす。

「用を節して」の部分で、無駄な金は使わないがよいぞと解説しています。そこが面白かったので申します。

明治 5 年に、明治政府の収入は四千万円だったと書いてあります。今の金額に直して幾らだかちょっと分かりません。ただその当時、明治政府の人達は、お金がある時にはわしづかみにお金をとって、お金がないと仕事はしなかったようでした。明治 5 年の時に、諮問委員会を大久保利通が開いて、その諮問会議に渋澤栄一は呼ばれたわけです。歳が三十を少し越したばかりですから、最後は大蔵事務次官のような仕事をしたのですが、大蔵省きっての切れ者という形で諮問会議に呼ばれていると思います。その時に大久保利通が、「収入は四千万だけれども、陸軍は 800 万使う。海軍は 250 万使う。諮問会議で専門家の意見を聞きたいけれども如何だ・・・」と言ったら、並居る大臣クラスの人達は一言も発しない。大久保利通の鶴の一声で皆決まっているので、誰も何も言わないわけです。渋澤栄一が「おかしい。政府のお金でも、入るを図りて出づるを制するが節用の否決である。いくら大久保卿が言われたとしても、四千万の収入に対して千五十万を軍事費用で当てるというのは無茶である。しかもきちんと歳入が立っていないところで、そのような使い方は止めたほうが良い」と言ったけれども、反対意見はただ一人で、誰も何も言わないので支出が決定してしまったのです。渋澤栄一は憤慨して、その場ですぐに辞めようと思ったけれども、井上馨に止められて、翌年明治政府を辞めるに至ったのです。その後も渋澤栄一は、「大久保利通という人は器量が大きいけれども、良くない。嫌な奴だ」と言い続けて、一生を終っています。

そういう渋澤栄一の『論語講義』が面白いので、論語講義を解説の時に使わせて戴いています。